

2023年10月のIGF京都会合に向けて

インターネットガバナンスフォーラム(IGF)2023年会合は、2020年に日本がホスト国となることが決定し、2023年10月8日(日)から12日(木)まで、京都市の京都国際会館を会場に開催されることが発表されています。^{※1}日本では初開催、アジア太平洋地域での開催も2013年バリ会合が前回ですので、実に10年振りとなります。本稿では、まずIGFに関する概要を説明し、IGF2023に向けた準備の状況、JPNICがIGFに込める期待などに関して、示してまいります。

IGFとは何か

IGFとは何かを説明するためには、インターネットガバナンスが何なのかを説明する必要があります。JPNIC Webにインターネットガバナンスのページ^{※2}を設置し、さまざまな情報を提供していますが、その中の「インターネットガバナンスとは」^{※3}では、「インターネットを健全に運営する上で必要なルール作りや仕組み、それらを検討して実施する体制など」としてインターネットガバナンスを定義した上で、その時々のインターネットの状況によって、この言葉がさまざまな文脈で捉えられていることを示しています。IGFの設置が決まった、世界情報社会サミット(W SIS)チュニスフェーズが開催された2005年は、先進国においてインターネットの個人利用が進んだことで、インターネットの重要性が認識され、その効用とともに弊害が認識され始めた時期です。チュニスフェーズに先立って事前検討を行ったWGIG(Working Group on Internet Governance)の報告書^{※4}には、インターネット基盤に関するものからインターネット上の社会的な問題まで、非常に多岐にわたる課題リストが示されています。このような、グローバルに広がるインターネットにおけるさまざまな問題に対処するべく設けられたのがIGFであり、国際連合主催で年次会合を開催するのがIGFの主な活動です。

IGFを特徴付けるものが2点あります。1点目は、国際連合主催でありながら、加盟国代表だけでなく、あらゆる関係者に門戸が開かれ、政府・政府間機関、民間セクター、市民社会、技術コミュニティなどあらゆるステークホルダーが参加する、「マルチステークホルダーアプローチ」を採用していることです。2点目は、IGF自体が何かルールや規範を定めるものではなく、ステークホルダー間の対話を行う場とし、対話によって深まった課題

に対する理解を元に、各ステークホルダーの権能の中で対処することが求められていることです。

このようにして設置され活動が始まったIGFですが、当初5年間と定められていた活動年限が2度延長され、現在のところ2025年までの開催が決定されています。直近の2022年に開催されたアディスアベバ会合では、実績ベースで現地参加2,500名、リモート参加を含めた総参加者数は5,000名超、総計300近いセッションが大小取り混ぜて10を超える会議室で並行して進む、全世界で最も大きなインターネット関係の会合となっています。スーツからカジュアル、民族衣装に至る服装、肌や髪の色、年齢層と、まことにさまざまで、多様性を体現するIGF会合は、規模も相まってとても華やかで、「インターネットの祭典」と呼ぶに相応しいものとなっています。



IGF2022 アディスアベバ会合の様子

IGF2023に向けた国内の活動 - IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム

2023年にIGF会合が日本で開催されることが決定して以来、国内でもこれに向けた活動が活発化しています。そもそも国際連合のIGF事務局では、地域や国レベルのIGF活動を推奨しており、National Regional IGF Initiatives(NRI)として、一定の条件を満たすものを認知した上で、連携を図っています。日本においては、Japan IGF^{※5}が2016年にNRIとして認知されています。Japan IGFとしては、IGFの報告会のようなイベントを実施するとともに、IGFの常連参加者も検討の輪を拡げていました。そのような状況の中、2020年の2023年日本開催決定を受けて、2021年3月30日に開催した

IGF2020報告会^{※6}において、IGF2023に向けた活動活発化をめざして、関心のある方に門戸を広げて、検討を進めていくことが合意され、「IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム」(以下、活発化チーム)が同5月に発足しました。活発化チームでは、それまではIGF報告会に留まっていた活動を、セッションを一般公募するなどしてIGFの運営原則に沿った活動を進め、会合参加者の人数も増加しました。活発化チームの会合の資料や記録は、Japan IGFのWebページに集積されています。

日本IGFタスクフォースによるさらなるエンゲージメント

活発化チームによる国内IGF活動の活発化は一定の成果を上げていっているとはいえ、運営参画や参加は、関心の高い個人に限られていました。今や経済活動の大半にインターネットが関係している中、国内の私企業にIGFの存在が知られているとは到底言えず、IGF2023に向けて、「インターネット関連」を超えた幅広い企業に参加を呼び掛けていく必要があります。それを実現するために、JPNICは、一般財団法人インターネット協会 (IAJapan)、一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会 (JAIPA)、活発化チーム、WIDEプロジェクトとともに、日本IGFタスクフォース (以下、タスクフォース) ^{※7} を設立しました。JPNICはタスクフォースの事務局も担当しています。

タスクフォースは、2022年11月22日に開催された設立総会で設立され、会長にWIDEプロジェクトファウンダーの村井純さん、副会長にJPNICの江崎浩理事長を選出しました。総務省がオブザーバーとして参加し、日本経済団体連合会が早速協賛を名乗り出てくださいました。目的として、IGF2023が円滑に開催され、盛会となり、IGFを日本に誘致した効果を最大化することを掲げています。

IGFの誘致は、総務省の政策方針として進められたものです。グローバルインターネットの発展に寄与することはもちろんとして、日本からのIGF活動への参加を増大するとともに、グローバルインターネットに対してプレゼンスを維持拡大するなど、主催国となることで実現したいことがあります。それを、民間でも検討して政府に進言する、あるいは政府と一緒に検討するというのが、タスクフォースの活動において主な部分を占めます。

タスクフォースでは2022年末から2023年1月にかけて、IGF2023で議論すべきテーマに関して検討を行いました。2023年という時間を、(アジア太平洋地域の中の)日本という場所で開かれるIGFということ意識して検討され、その結果、「アクセス」と「環境継続性」という二つのキーワードが浮かび上がりました。「アクセス」に関しては二つの側面が示されました。一つは、Starlinkのサービス開始をはじめとする、LEO(低軌道衛星)によるインターネットアクセス提供です。これによって、地球上のありとあらゆる場所にインターネットアクセスを提供できる時代が訪れようとしています。もう一つは、ビデオストリームがインターネットのトラフィックの主要な部分を占めるようになったことで、日本においては2022年のサッカーワールドカップの試合中継がインターネットを介して提供され、大過なく達成したことが象徴的でした。「環境継続性」は、これもLEOによるインターネットアクセス提供に関連しますが、地球上のありとあらゆる場所にインターネットアクセスを提供できることによって、地球上のありとあらゆる場所のデータの採取が可能になり、環境継続性、あるいは他のSDGs諸問題のゴールに関する研究に、極めて良質のエビデンスを提供することが可能になるという観点であり、マルチステークホルダーが集うIGFは、こういった技術基盤の提供者とデータを利用する研究者の集合点としても有効ではないか、という考えです。この検討結果は、2023年1月末まで募集されていた、Thematic Input(重点テーマに関する意見提出)として、提出しました。

2023年10月に向けて

タスクフォースも立ち上がり、今後10月のIGF2023に向けて準備を進めていきます。日本で開催されるIGFという絶好の機会を、日本の皆さんにもフルに活用していただきたく、いろいろなプロモーション活動を進めていく必要があります。IGF会合は、Workshopという種別のセッションを中心に、誰でもセッション提案を提出することができます。Workshop提案受付は、2023年4月1日から5月20日の予定で、これに向けて、日本の皆さんにも、積極的に提案していただけるよう、周知活動を進めていく必要があります。活発化チームが企画している国内IGF会合も、IGF2023に向けた企画を詰め込んでいく必要があります。これらも含めて、IGF2023が充実した成果を残せるように、努めてまいります。IGF2023をぜひともご期待ください。

華やかなインターネットの祭典であるIGFは、必ずや非常に大きな印象を参加する日本の方々に残すだろうと思うところですが、タスク

フォースには、IGF2023のレガシーとでも呼ぶべき計画があります。タスクフォースの設立趣意書 ^{※8} の最後は、以下の文で締められています。

「また、現在まで続けられてきた国内のIGF活動が、インターネットを前提としたよりよい社会・地球の実現のための対話の場として花開くような継承活動については、別途に検討する考えです。」

これは、タスクフォースに集まった団体や企業の皆さんをお誘いして、Japan IGFとして進めてきた国内IGF活動を将来的に維持発展させるための、運営体制を構築するというものです。この考えは活発化チームにおいても共有されており、活発化チームの今までの営みを、IGF2023を機に発展させて充実させるべく、実現したいものです。そのためにも、最上のIGF2023を実現していきたいと、JPNIC会員や日本のさまざまな方々に、ご参加ご支援をお願いするものです。

(JPNIC 政策主幹 前村昌紀)

- ※1 インターネット・ガバナンス・フォーラム2023の日本開催
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin06_02000261.html
- ※2 JPNIC Web「インターネットガバナンス」
<https://www.nic.ad.jp/ja/governance/>
- ※3 インターネットガバナンスとは
<https://www.nic.ad.jp/ja/governance/about.html>
- ※4 Report of the Working Group on Internet Governance
<https://www.wgig.org/docs/WGIGREPORT.doc>

- ※5 Japan IGF
<https://japanigf.jp/>
- ※6 IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チームキックオフ会合資料
<https://japanigf.jp/topics/igf-2023igf-1>
- ※7 日本IGFタスクフォース
<https://igf2023taskforce.jp/>
- ※8 日本IGFタスクフォース設立趣意書
<https://igf2023taskforce.jp/application/files/7716/7115/6344/prospectus.pdf>